テレビ会議システムを活用した院内学級の事例

病弱・身体虚弱特別支援学級（院内学級）に在籍する小学１年生の児童がテレビ会議システムを介して通常の学級と行った交流及び共同学習

〇概要

Ａ児は小学校１年生で、Ｂ病院内にあるＣ市立Ｄ小学校の病弱・身体虚弱特別支援学級（以下、「院内学級」という。）に在籍している。幼児期より骨形成不全症の治療を続けており、小学校入学前に骨折し、Ｂ病院で入院療養とリハビリテーションを行っている。

院内学級には現在、Ａ児のみが在籍し、担任と一対一での個別学習を行い、特定の行事以外は集団での学習場面が限られている。そのため、集団での学習経験を少しでも多く確保するために、院内学級とＤ小学校１学年の通常の学級（以下、「交流学級」という。）の児童との、授業での交流及び共同学習を推進してきた。テレビ会議システムを活用した授業は、月１回の計画で実施している。

また、院内学級における各教科等の授業においては、自立活動のねらいを意識しながら、身体各部位の筋力や機能の維持・向上を図るとともに、タブレット型端末を活用して学習意欲の向上や基礎的・基本的な内容の定着を図った。

１．対象児童について

Ａ児　：Ｃ市立Ｄ小学校の院内学級に在籍する小学校１年生である。普段は車いすを使用しているが、徐々に歩行移動が可能になってきている。Ａ児は、小柄で、体幹や四肢、手指等の力は弱いが、院内学級における車いすでの学習に大きな支障はない。骨形成不全症の特性から運動の制限だけでなく、骨折や成長発達への影響等に対する不安を抱えながら日々治療や学習に励んでいる。

２．活動のねらい

Ａ児は、学習意欲が高く、学習した内容は確実に定着している。家族、医療スタッフ、教員等の大人との会話では、物怖じせず話題も豊富だが、同年代の児童に対しては、人見知りがあり、コミュニケーションを上手くとれないときもある。そこで、Ａ児の退院後の学校生活を見据えて、集団での学習機会を確保して、同年代の児童と関わる機会を増やすことを目的に、月に数回、Ｄ小学校の同級生である、１年生の児童との交流及び共同学習を実施した。その際、Ａ児の病状と体調を考慮し、交流及び共同学習の時間、回数、参加人数、題材や教材等を検討しながら段階的に進めてきた。

３．事前の取組と配慮

テレビ会議システムを活用して、Ｄ小学校の交流学級（１学年）との交流及び共同学習を定期的に行った。テレビ会議システムの技術サポートには、Ｄ小学校教員、教育委員会事務局職員及びＩＣＴ支援員が関わり、活用方法や授業内容に関して、事前に打ち合わせを重ねた。また、体調及び治療に支障のない範囲で、Ｄ小学校に出向き学校行事等に参加した。車いすで参加するＡ児の気持ちを推しはかり、参加人数や活動内容を調整し、特別支援学級での合同授業、交流学級でのお楽しみ会、遠足等等に段階的に参加できるように調整した。

Ａ児は、筆圧や筆記速度が必ずしも十分ではないため、限られた時間内に多くの筆記が必要となる学習（例えば、漢字の読み書きや数の計算等）では、タブレット型端末の学習用アプリケーションを使用して学習を行った。アプリケーションの選定の際には、Ｄ小学校の通級による指導や特別支援学級において取り組んできたアプリケーション等の教材活用のノウハウ等も参考にした。

写真　テレビ会議システムを利用した交流及び共同学習の様子

４．活動の様子と成果

Ａ児は交流及び共同学習に終始笑顔で参加し、休み時間にもＡ児が話したい相手の名前を挙げる等、主体的に交流学級の児童に話しかける様子も見られた。回を重ねるごとにカメラワークや発言のタイミング、背景の調整等に慣れてきた。また、Ａ児は、最初は車いすでテレビ会議システムを利用できる場所に移動したが、２回目からは自力歩行でその場所に向かう等、学習への強い意欲が見られた。

交流学級の児童の多くは、Ａ児を学級の一員として認識するようになり、Ａ児が学級の行事に参加する際には、Ａ児に話しかける児童が多く見られた。また、Ｄ小学校の教員は、学習内容の検討等を通して、Ａ児の実態や課題等に関する理解を深めた。

テレビ会議システムを活用した交流及び共同学習は、車いすでの移動や運動、天候等の影響を受けずに学習できる。また、画面に映る人と会話に集中できる点も、Ａ児の指導において有効であった。

５．事後の取組、今後の課題

テレビ会議システムによる交流及び共同学習の後には、必ずＡ児に感想を聞く等して、Ａ児の心理的な負担の有無について適宜確認するように努めた。

今後の課題として、病気療養児の教育におけるＩＣＴ活用の有用性を最大限に生かすためには、教員自らがテレビ会議システムの機器設定や具体的な操作に慣れる等、使いこなせることが望ましいため、教員のＩＣＴ機器操作に係る資質向上を図るための研修を充実させていくことが挙げられる。

また、病気療養児の個人情報は、病名だけでなく、病気の状況や入院歴、治療歴、服薬や日頃の配慮事項、退院後の見通し等、その取扱いについては十分に配慮すべきである。そのため、テレビ会議システムのセキュリティや活用の仕方等については、今後も教育委員会や病院と共通理解を図りながら推進していく必要がある。